

38期の大先輩と105期の若人の

音頭で、なごやかに乾杯。



二百二十余名集まり盛会

第15回総会・懇親会

新しい平成時代を迎えて

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第27号
平成元年 7月28日発行
編集人 上 杉 重 吉

東京地方に梅雨入り宣言が出された六月九日(金)、あいにくの強い雨の中を、二百余名の岳南健児が築地スエヒロ八階ホールに集い、平成になって始めての静中・静高関東同窓会総会が開かれました。六時すぎには、久しぶりの再会を楽しむ姿が見られ、恒例の静岡からの名産品の即売も、わざわざ潰、安倍川もち、黒はんぺん等々、開始までには完売の状況でした。

定刻六時半、あいにく宮澤会長が欠席のため、仮議長42期岩波信平氏の推薦で奥野副会長を議長に選出、議事に入りました。恒例の事業報告・会計報告は奥沢副会長が説明、後藤監事の監査報告を受け、満場の拍手で承認されました。

平成元年度の事業計画も、新規提案を大いに歓迎するとのコメントを含め承認。本年はここで規約案の改正が提案され、これも承認。新しい規約に基づいて新しい役員が選出されました。

十四年の長きにわたって会長を勤められました宮澤先輩に代って53期大石巖氏が新会長に、これまでの五名の副会長に加えて、新たに二名の副会長70期味岡宏氏、87期薬科名雄氏が就任。監事には94期松野敦子氏が新たに選ばれました。役員選出に引続き、新会長大石巖氏より「皆様の絶大な協力を」との挨拶があり、来賓として本部高橋副会長、これまでの本部事務局68期松永氏、新事務局甲木氏の挨拶が続きました。

総会はこちらまで、懇親会に入り、一番古い期の38期石割正大先輩と、一番新しい期105期の女性四人の乾杯の音頭で、歓談が始まりました。例年のように、なつかしい静岡のおでん、黒はんぺん、玉ねぎのフライもテーブルに並べられ、参加者の舌を満足させていました。会場のあちこちでは、孫の年代の若者を相手に話の花が咲く場面も見られました。もちろん同期の久しぶりの再会を祝い、またの機会を約束しあう姿も数多く見られました。

時も過ぎて、九時近くになり校歌を四番まで斉唱して、またの再会を約し、お開きとなりました。

(77期 加藤重信)



◇1月28日、母校新校舎落成式に
副会長など8名訪静
◇副会長打合せ会
・2月17日(金) 18時
・諸行事、会報・名簿の件 など

◇3月24日、新会長就任要請のため、副会長など7名で新日本証券の大石敬相談役を訪問、諸事項協議・懇談
◇幹事会
・4月19日(水) 18時半
・築地スエヒロ
出席者：37名

・6月9日の総会について、またその案内状の発送依頼 など

静中静高同窓会小委員会

日時 十月二十日 四時より
場所 静岡日興会館四階
出席者 44期鈴木与平同窓会会長
53期奥野孝閑東委員長、54期高橋孝三静岡委員長、事務局69期松永弘道
十一月七日同窓会総会を前に、今後の同窓会運営の基本的方針、広域支部助成金について話し合いを持った。

同 期 会

四三期

私共のクラスは昭和三年三月三日が卒業式で、すべてが喜寿を過ぎており今年で丁度卒業六十周年に当る。吾々は破乱の多かった昭和時代を生き抜いてきたわけで、昭和の終末も近づきつつあり感慨無量である。今年中に開かないと記念大会でなくなるので忘年会を兼ねて、十二月六日その名も懐かしい九段の偕交社(今は小さい建物であるが)で、吉江誠一君のお世話で六十周年の記念パーティを開いた。

現在、関東地区には会員二〇名がまずまず元気であるが、当日は昼食会で開いたので未だ現役の北里良夫、倉沢栄吉、山家清、山村忠雄の諸兄は都合つかずに欠席されてしまった。田崎茂夫君は丁度当日台湾旅行の為に欠席され、坪晴行、今井志郎、松下篤三の三君も所用のため欠席、井沢源治、小河直人、望月孟夫の三君は御療養中の為の欠席であった。

静岡より小杉一、高須彰君、大

阪より遠路平山桂君が出席され、集る者十二名であった。



第一番に千葉の三好由三郎君が真先に到着されており、東京組もつぎつぎに到着したが、静岡組が

中央線の快速で四ツ谷駅より引返えずハブニングもあって僅かに遅刻したが、全員集った所で、幹事の音頭で乾盃、和やかな宴が開かれた。

四三会員もこの数年の間鬼籍に入る者も多くて今年には三名も失っている。

小杉君より静岡同窓会本部総会の話、クラスメートの報告、母校新校舎の説明などあり、新年度のクラス会の計画などを話し会った。酒肴もすすみ、話題も尽きず、名残りの惜しいが遠路の方々の予定もあり、卒業以来の長かった六十十年の思い出を残して再会を約して解散した。

静岡で毎月二〇日に開いている三笑会にも多数出席するように申し合せた。

当日の出席者は左記の通り。

西沢純三、吉江誠一、長戸寛美、三宅静雄、小杉一、島田富治雄、高須彰、池谷三郎、三好由三郎、豊島英雄、平山桂、柳沢保雄
(西沢純三)

四七期

関東四七回の平成元年の新年会を、場所も恒例の新宿駅ビル八番街の松澄で行った。今年も十四名(内静岡から二名)の出席で盛会

であった。

石上、今関、大村、亀山、小柳、志田、杉江、杉山、関口、中村、野口、星野、向坂、山上

静岡から遠路出席者の都合も考えて開会を午後三時にした。

今関幹事から会計報告、欠席者の動静などの報告、次いで山上幹事が、来る五月二十四日、二十五日の横浜博覧物の四七回(全国)行事について改めて説明、協力を求めた。現在までの参加申込者約三〇名の盛況は嬉しいことである。遠来の石上真義氏の音頭で乾杯。虎の門病院に入院中の嶋谷博士の見舞に、この日昼すぎ志田兄の案内で、静岡の石上、小柳、向坂の諸兄が行ってきた由、幸いに病人は機嫌が良く、食事はまだ流動食だが、もう一度昔の生活に戻りたいと闘志旺盛であったという。全快を祈る。

今年は佐津川太郎氏が静岡へ帰って、岡部町に住み、代りに上田次郎氏が岩槻市へ移ってきた。各人の近況報告は面白かった。五〇年振りに会った用宗の小柳明男氏が造船所は辞めた由、体重四七kgで、体調良好とのこと。

「四七回の中で、シベリヤ抑留は自分一人、今も現役で働いているのは私一人」と関口不二夫氏は

意気盛んであった。

朝六時に起きて納豆を作る、山梨県大月市の旧本陣、星野家の旦那様、三郎氏の「納豆栄養論」を聞き、星野氏からの納豆と、片山正二氏から差入れの甘栗を土産に六時前に散会した。

天皇の崩御のためか、「岳南健児」の歌声も出なかった。

皆、歳をとったのだろか。

(今関智吉)

鵜谷亮一氏(国立横浜病院名誉院長) 六月二十一日にご永眠、心からご冥福をお祈りいたします。

四八期

四八期同期会は毎年四月八日静岡で開こうではないかと云う申合

であったが、昨年は頸椎症で出席出来ず、今年は元気で出席出来るのは大変楽しい。実は毎年前夜祭を約束している事だ。松平君福永君飯田君堀君小生等が静岡在住の海野君の御世話で五年来続いている。今年は佐野春で夕食を共にする事にしている。東京十一時頃の新幹線で十二時半頃静岡着、静大岡部教授の病氣を見舞いキャッスルホテルにて海野君松平君と落合う。今年は飯田君堀君は病気で欠席、福永君は所要で欠席、早速浅間神社に行く。桜は終わったがまだ残っている。五十年振りだ。実は五十年前神社の奥まで入った記憶はない。

海野君が連絡してあって、本名彌宜が案内に立って呉れた。松平君の父上が宮司をやっていた時から七代目に当たるとの事。左伴宮司権彌宜片山氏にも御目に掛り昔話に花が咲いた。

本名彌宜氏の案内で神戸神社浅間神社の本殿を拝見。銅板葺総漆塗極彩色彫刻その豪華絢爛さに唯々驚胆するばかり。特に之を工事する宮大工、漆師、金工師の人材の確保は相当困難だった模様だ。又文化財の資料館も中々充実したものだ。静岡在住の同期生の見学を是非お勧めします。

浅間神社を辞し静岡博を開催している駿府城を一周り見学、懐しさ一杯だ。三四聯隊に入営した事は夢の様だ。花の残るお堀端を見て佐の春に戻る。前夜祭と云うが今年は残念乍ら三名だけ。料理の懐しさ、又お上さんのもてなしの上品さ此の上なし。之では京都の料亭も顔負けか。私共の親友が時々宴会に使っていた事はよく覚えていた。

充分腹ごしらえも出来て二次会に向う。ピアノ「蕨」と云う所だ。海野君が予め予約してあったと見えて、ママさんの尚子さんがピアノを弾いていた。私は曲は判らないが、松平君は全部判るらしい。ママさんは松平氏訳のヘーシオドスの「仕事と日」を何冊も持って来て、サインして呉れと云う。どんなサインをするかと見てみると、美しいギリシャ語でサインしていた。

佐の春の日本酒もあり、定量のウィスキーダブル二杯ですっかり酩酊。それからどう帰ったか記憶喪失の状態となった。

翌四月八日は東海軒で総勢三十六名、例年通り四八会が下田君の司会で盛大に始った。懐しい顔があちこちに見える。名前と顔が判らない人もいる。私は二年の時鹿児島から転校、四年で静岡に行ったため三年しか在学しなかったの

で余計判らない。名前を聞いて始めて思い出す人もいる。

宴も盛り上った所で、土浦での出版記念会に出席する松平君の都合で先に失礼して東京に帰った。

(太田正元)

五〇期

出会

平成元年春季同期会が四月十七日(月)十八時からレストラン・ブラザで開かれ、会員十名、静岡か

ら木下、小泉両君が加わり、飲談に時を忘れ、二十時校歌を歌い、再会を約して散会。次回は十月二十三日(月)同時同所。出席者の発言の要旨つぎのとおり。

(梶原) ゲートボール中心。この頃無性に昔が懐しく旧友を訪ねている。寝たきりや惣老人になったら、人と会いたくない。死は独り静かに迎えたい。

(丸尾) 月水金は埼玉第一高校校長として、木は日大講師。六四年安保の時ギックリ腰をやリ、完治せず、テニスへの夢捨てがたし。

(大庭左) 会社やめ二年経った。四人の息子が、シャトル、ロス、デュッセル、ロンドンにいたので、回ってみたい。

(仁科) 六十年脳梗塞をやったがリハビリに成功、昨年は欧州旅行をした。散歩励行。先般カソリックに入信。

(一) 同期の物故者続き淋しい。(二月富田君、三月山本浩君)。

眼科、内科と病院通い、右眼白内障近く入院、一月以来寺巡り、地域社会の集いや合唱団に参加。

(大庭宣) 先日山本浩君葬儀に参加。毎日家を出るのが健康法。

(浅賀) 白内障進行中。特許庁七五才停年迄頑張る。土・日はテニスで身体を動かす。

(田中) スポーツセンターで週三、四回汗を流す。専門書は読まないことにしている。

(山田) 三井在籍四十七年だが、末娘十九才。まだまだ老けられぬ。寝る、休む、散歩、身体の一部に力を入れる。ビタミンEをとる。綺麗な娘の側にいる、英会話、ボ

ルノ映画、若く見せる工夫に努める。死ぬまでできるセックスの道具推奨。(88・9文春P4)

出会

「人生とは人と出会ひ、人と別れる筋書のないドラマである」といわれる。名刺を交換した人でさえ、二度以上会うのは十五%以下に過ぎない。縁の薄いこの世の中で、上司と部下は休日以外毎日顔を合わせている。何と縁の濃いことか。部下が毎朝軽い足取りで会社へやってこれるか、暗い気持ちで足取りも重くやってくることになるか、殆んどその職場のボスの態度で決まる。部下が幸せな人生をおくれるかどうか、その生殺与奪の権を握っているのが、職場のボスである。好き嫌いや、一時の感情で対応するなどもってのほか、社会的責任を感じて下さい。部下が楽しい毎日が送れ、明るい職場で、仕事の成果が上がらないなんて聞いたことがない。以上が中小

企業の幹部教育の一端である。先日やってきた娘が、「パパは現役のときより今の方がずっと活々してるわよ」と辛口批評をして行った。私が六十才で会社をやめ、経営コンサルタントの道へ入る決心をしたのは昭和五十二年の秋、つぎの言葉に出会ったからだ。

「人生に対する情熱と夢を持たず、ただ惰性で一生を終えた人間の墓碑銘は、こう書かれるのがふさわしい。『二十才にして死に、六十才にして埋められる』と。」

ポール・マイヤー

(永田 澄)

五一期 (五一会)

暫らく御無沙汰しました。会員の皆様には益々御元気で各方面に御活躍のこととお慶び申し上げます。私共五一期卒業生は「五一会」と称して、年二回春は東京で秋は静岡でクラス会を続けて居りますことは既にお伝えした通りです。今回は静岡の三笑亭本店で去る十一月十九日(土)通算第三六回の会合を致しました。出席者は二十八名で内訳は後記の通りですが一年前の二十六名より多く四人ずつで鍋を囲みましたが大変に賑やかな盛り上った雰囲気となり、予定時間を超過して九時前幹事の発声で恒例

の校歌を合唱散会しました。なお

東京での会合は前回報告の通り去る四月十五日(金)いつもの築地「スエヒロ」で開催、出席者は一年前と同数の二一名でした。今回静岡での会合ではぜひこのまま五

一回まで続けて行きたい。その為には年に二回でなく回数を増加してもよいとの話が出ました。記念写真については例によって原崎君が全員のものとスナップを多数撮って呉れました。次に出席者氏名を順序不同で掲げます。

田沢義淳、足野良市、市原英助、原崎郁平、大石久吉、橋本祥一、岡村丈助、松村辰巳、松永 正、藤田純男、田宮久美、飯田鉄雄、鈴木義一、荒井園睦、柴崎育俊、山村卓彦、佐伯正剛、岡村一夫、内田磯次、林 盛次、石塚寿男、丸山雅生、山仲元司、森 弘、滝戸直正、牧野三郎、遠田 毅、狩野安彦。

(佐伯正剛)

五四期

六月九日、スエヒロで関東同窓会があったが、五四期会は小生と細井君だけで淋しかった。ところが思いがけず静岡から高橋孝三君が鈴木会長の名代で出席し、おまけに彼の誘いで居初君が顔を現わしたので、四人で久し振りに歓談

した。

同窓会は同期の仲間が居なくてつまらないとは各期とも共通した声である。だから同期会で旧交をあたためようと、昨年は天皇ご不例のこともあってやらなかった関東五四期会を今年はやろうと話し合った。

静岡の連中も呼ぶこともあって場所には近いところが便利だと考え、一昨年と同じ新橋駅前「太洋」でやろうと思うがどうだろうか。

静岡からは高橋孝三・望月逸夫の両君をはじめ永原・中村武・長居、幹事の友広・栗田・沢井・高木の諸君にも案内を出すつもりだが、ほかに呼びたい友が居たら小生宛電話をして欲しい。

日時は十一月の土曜日、六時から九時頃までを予定している。その時は、できるだけ都合して出てくれることを今からお願ひしてお

く。(庵原悌次)

六〇期

十六日に会いましょう

静岡六十回卒業の皆さん、おかわりありませんか。

東京という大都会の中に住んでいると、同期生といえどもなかなか顔を合せる機会が少ないのです

が、たまに会ったおりなど、

「どう、この頃静岡へ行くことある?.....」

と聞くと、

「最近、めったにないね.....」

という答えがかえって来ます。

考えてみれば、昭和二十年のあの混乱の中での卒業以来、すでに四十年余りの歳月が流れているのですから、いかに生れ育ったところとはいえ、街も人もすっかり変わり、昔を偲ばせるものもほとんど無いとあっては、足が遠退くのもあたりまえかもしれません。

そして次に、

「これといった用事もなし、街を見てもはじまらないし、語り会いたい人もなかなか見つからないからね.....」

といった言い訳めいたことばかり続きます。

たしかに、いそがしい世の中、それぞれが仕事に追われていて、ゆっくり語り合おうとしても、お互いその暇がないのが実情というものでしょう。

でも、こんなとき、あるきまっ場所に行けばかならず同期の知った顔の誰かに会え、自由に話し合うことが出来るとなったらどんなにいいだろうとは思いません

か。

嬉しいことに、わが六十期には

そうした会が静岡にちゃんと用意されているのです。これからそれを御紹介することにしましょう。

いっどこで開かれているのかと

申しますと.....

毎月一回十六日。これは六十回卒業にちなんで、六十を逆にし十六日ときめたそうですが、曜日に関係なく、日曜にあたつたときだけ、翌十七日月曜日となります。

場所は、静岡市山崎新田の磯谷恵一君の自宅応接室。

夜七時から三々五々集まっては

気ままに語り合い、時には十時を過ぎ午前〇時をまわることもあるとか。

会費は二〇〇円の持ち寄り。お茶と茶菓子少々。アルコールは原則として出ない。

といって、別にかたくなるしい勉強会といったものを目指しているわけではない。

そもそも、この会のはじまりと

丁度われわれが働き盛りの不惑

いうのが、今を去る二十二年前、

の年を迎えたおり、誰からともな

く、会えばきまって話は商売と金

のことばかり、これでは人間関係

もぎくしゃくするばかり、だから

たまにはそうした生臭い話とは関

係ない楽しい自由な場を持ちたい

との声があり、それがきつかけと
なってスタートしたのです。です
から、はじめからテーマなどはい
っさい無し、その時々で思いつく
まま、その場の風しだい、時々
は大きく航路がはずれることも出
てくるのか。

この四月の会には、磯谷恵一、
才茂馨英、鈴木功、名波謙三、森
迪也、山本昭次の諸君が元氣な顔
を見せ、夜おそくまで話がはずん
だということだ。

とかく三日坊主でくずれさるこ
との多いなかで、二十年余りもこ
うした会が続いているということ
はおどろくべきことだと思ふので
す。同時にわが六十期としては大
いに自慢してもいいことではない
でしょうか。

何年か前には遠くローマ在住の
カメラマン、岡村徹君もわざわざ
姿を見せて呉れました。十六日を
忘れずに、静岡に遠退いた足を向
けて見ましよう。きつと思いがけ
ない人にめぐり逢い、思いがけな
い話に出会えるにちがいありませ
ん。

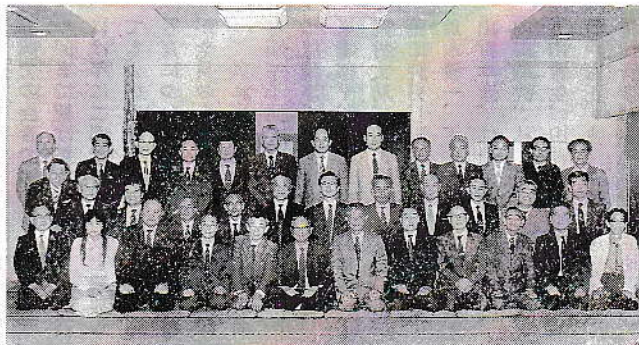
同期の皆さん、いつか、十六日
にお会いできるのを楽しみにして
います。さようなら……。

(原 善三郎)

六七期

ペルーから一時帰国
三十年ぶり再会の市川君

海外にもその足を延ばして活躍
する人材が、我が六七期にも数多
い。今度、三十年ぶりにペルーか
ら一時帰国した市川哲朗君もその
一人である。六七期の久し振りの



集まりは、帰静中の同君を囲むか
たちで、去る五月十七日の夜、静
岡市安西の「かきや」で。

リマ市の文化団体「いちご文化

協会」のメンバーとして、日本語
教室の主任教授を勤めている市川
君は、この日母校の同窓会会館で
「ペルーの日本語教育の現状」に
ついて、講演した。教員、教材の

不足、日本語教員の給与の低いこ
となど問題点を語り、「とりわけ
日本語教育に対する認識の低さが
最大の問題。それでも、教師たち
は、レベル向上を目指して懸命に
努力している」現状を説明した。

そして「日本の国際化には日本
語の国際化が大事。技術や学問は
もちろん、日本の文化や心は日本
語で伝えなくては理解は不可能。
繊細で豊かで、世界で一番美しく
ゆかしい日本語を世界に広め、英
語に負けないようにするため、多
くの人の協力を願いたい」と結ん
だ。

「かきや」での集まりには、天
野賢輔君はじめ、何年ぶりという
顔触れも加わり、北川、湯原、村
上、三浦先生などの恩師に同窓会
の川村副会長、事務局の松永先生
や中瀬さんらも出席、十四人の参
加となった。

乾杯の発声は、恒例により一番
遠くからの出席者。今回は当然超
遠隔地からの市川君。『静中時代
はつい昨日のように思われる』同
君と共に、戦後の焼け残った校舎

追悼

鎮魂・戦死した友へ

55期 山本 武

先々号25号に野中篤君が南西諸
島で特攻戦死した金子保君への尽
きぬ思いを込めた追悼文を寄せ、
先号26号では中田吉信君が金子君
を惜しみながらも、同時に一兵士
としてサイパン戦で戦死した牧田
善之助君の場合にふれて「ひどい
時代だった」と回想しています。
三たび私が筆をとるについては、
私たちがたまたま昭和18年12月の
学徒出陣組として、あの時代の悲
劇の一つの象徴とされる「わだつ
みの世代」に属し、戦死した多く
の55期の学友と軍隊での同期の戦
友への消えることのない痛恨の想
いを抱き続けて、戦後を生きてき
たという特別な感慨があることを
ご理解下さい。

いわゆる学徒出陣と言われるの
は、昭和18年9月21日在学徴集延
期臨時特例が閣議決定され、10月
1日の勅令公布によって、全国十
数万と推定される法文系学生が一
斉に徴兵猶予を取り消され、神宮
外苑の出陣学徒壮行会などを経て

での二部授業、土埃のたつ「ウマ
小屋教室時代」の回顧談に時を忘
れた。

(光木 徹)

慌しく月末には徴兵検査、そして
陸軍は12月1日、海軍は10日に二
等兵二等水兵として、夫々大量に
入営、入団していったことを言い
ます。もともとそれ以前に、既に
昭和16年から在学年限が短縮され
繰り上げ卒業後間もなく徴集され
ている先輩がおり、また昭和18年
9月には、最初から士官待遇であ
った陸軍の一期特別操縦見習士
官、海軍の十三期飛行予備学生の
公募入隊もあります。金子君はこ
の十三期であり、牧田君は55期の
仲間と共に、12月の静岡連隊への
入営でした。

ここでさきの野中君、中田君の
投稿に若干の補足をします。金子
君が突入した昭和20年4月6日は
菊水一号作戦の初日で、陸海合わ
せて三百余機の特攻機が投入され
米軍資料でも艦船三十余隻沈没破
という相当の戦果をあげていま
す。また、金子君たちの十三期飛
行予備学生は総員四七二六名中、
四四七名の特攻を含む戦死者一五
三五名という飛行予備学生中の最
大の犠牲を出しています。「雲な
がるる果てに」所収の学徒兵の川
柳に「特攻も予備士官なる意地が

あり」とあるのは、特攻には主として学徒兵と予科練があてられたという背景があり、「十三期特攻専門士官なり」というのは、さきの数字が実証しています。

牧田君は立大からでしたが、私は二ヶ月の初年兵教育を共にしたので、彼が不向きな軍隊で懸命に頑張ったのを見ています。しかし小柄で動作に妙に柔らかなところがあり、それに何よりテレビ屋で軍隊向きに見せかけをよくすることなど出来ませんでした。そして幹部候補生試験に落ち、二等兵のまま南方行となったのです。私は昭和19年4月下旬の出発の日の夜、準備でこつた返す彼の中隊を訪ね、真新しい南方用軍服姿の彼と会いました。「こんなもの着せられちゃ、おしまいだよ」と憤りとも諦めともテレ隠しともとれる彼の言葉を感じています。私がどう慰めたか励ましたか覚えていません。

やがて彼の方から「じゃ」と言い、挙手をして兵舎に戻る小さな後姿はよく覚えていてます。その数時間後に衛門を去った静岡連隊は、5月30日館山沖を抜橋、途中潜水艦の雷撃によって二千二百余名が海上戦死、辛うじて千名足らずがサイパンに到着、一週間後の6月15日敵上陸、20日間の死闘ののち、

7月7日のパンザイ突撃、マップ岬の集団自決を経て、7月18日三万数千の兵士が一万の市民と共に玉砕しました。牧田君は海上戦死でした。そして8月15日前、連隊において、一等兵に進級した彼の中身のない「遺骨箱」が遺族に渡されたそうです。

平和な時代にあれば有能な技術者であつたらう金子君。間違いない良き市民であつたらう牧田君。中田君は「志願し」たものの「殺され」たものと言うが、あの戦争で理不尽に死んだ友を想う無念さに変りはありません。「きけわだつみのこえ」に始まる多くの学徒兵の遺稿は、「真空地帯」をのり越え、建前と別に、自己形成、自己確信へとひたむきな求道の苦悩と渇仰に満たされています。私も陸軍の水上特攻隊であつた海上挺進戦隊にあって、島尾敏雄氏と同じ奄美大島で「出発は遂に訪れず」生きていた日々、「哲学の根本問題」が座右の書でした。そして遺稿の多くと同じように、もはや勝敗は知らず、愛する国土と同胞のために、それをこの時代の定めとして、突入するのみと考えるばかりでした。

いし、「弥栄信じて」は既に敗戦を予想し祖国の命運を憂えるもののように読めるのです。また私と同じ海上挺進戦隊でルソン島で殆ど全滅した隊に、55期の杉浦卓也見習士官がいましたが、この隊に静中卒ではありませんが中田君と旧制静岡高同級の海上春雄君もあり、出撃直前の絶筆が「きけわだつみのこえ」に収められています。「父上様、母上様。元氣で任地へ向ヒマス。春雄ハ凡ユル意味デヤハリ学生デシタ。」公的な遺書と別に、検閲のない突入直前のメモの中に簡潔に学徒兵の誇りと達観をみることが出来ます。こうして次々に、限らないほど有為な若い魂が逝きました。

かつて戦争体験伝承の必要が言われ、私もそう思いましたが、一体、伝承は可能なのでしょうか。経綸もなく自浄能力もない政治、米国の世界戦略ではあつても日本には砂上楼阁の安保、根深いジャパン・パッシングの中のかきそめの経済大国、インフラ整備を忘れた過剰消費社会、吉田満氏の言うアイデンティティの喪失、小此木啓吾教授の総自己愛人間化とモラトリウム人間時代。これらは野中君の言う「空前の繁栄」とは違うのではないのでしょうか。これが

金子君や牧田君たち戦死した友が最後の瞬間に熱望した祖国の再建に見合ったものとは到底思えませんが、私はもはや体験伝承の意欲をなくしています。残された私たちが「わだつみの想念」にこたわり「痛恨の昭和」を生き続けることが、伝承そのもののあり方であるかも知れないと思うことにしました。そしてそれが、いま、私に出来る戦死した友への鎮魂の微意であることを許してもらいたいと思っています。

五五期

五五期の高橋恒三君が、昨年十二月二十六日、心不全のため、船橋市新高根三ノ五ノ四の自宅で逝去された。享年六十六。

回想・随感・近況など

私の一病息災

42期 堀 夷

一病息災ということわざは子供の頃からよく聞かされて来たが、これは「無病で健康な人よりも、

一つぐらい病気のある人の方が、健康に気を配り、かえって長生き

である」という事と理解しているのだが、この三、四年來の私の場合は、このまま素直には受取り難いのだがという感じがして来ている。

と言う訳は、すぐこの数年前までは、幸いに生死に直接係わるような大病には罹らずに、何とか切

同君は、昭和十五年静中卒、旧制静岡高校、東北大学卒業後、文部省に入り、同省初等中等教育局審議官、文化庁文化財保護部長、東北大学事務局長、日本私学振興財団常務理事、学校法人和洋学園常務理事・事務局長等の要職を歴任された。

関東同窓会の総会や五五期会には必ず出席されていた同君が、こしはばく顔を見せず、健康がすぐれないとのことだったが、級友一同また元氣な姿を見せてくれるものと信じていた。

本当に思いがけないことで、今となつては、ありし日の温容をしのび、心から冥福を祈るばかりである。
(相川富士雄)

り抜けて来たのだったが、昭和六十一年の夏になって、いつの間にかとんでもない奇病に罹っている事が判り、私をびっくりさせた。一口に言えば、何時の間にか私の下腹の中には、世にも珍らしい悪性の腫瘍（しゅよう、できもの）が、知らぬ間にどっかりと住み付いていることが発見されたのだ。専門的には脊索腫（せきさくしゅ）と言うのだそうだが、この腫瘍そのものが珍らしい上に（胎児の脊索の一部が生れても脊髄に退化し得ないでそのまま残ったもの）、その発生した位置が、脊髄の最下端の第五腰椎の内側で治療には最も困難な位置の由であり、これを処置出来るお医者さんも大変少なく、私の場合もわざわざ東大付属病院のM教授を煩わせざるを得なかった由だった。詳しくお話しするにはとても紙数が足りないが、一口で言えば、腫瘍そのものは余り痛まないが、その生長は早く、周りの内臓に機械的な悪さを仕掛けるのが困るのだ。私の場合、直前に位置する直腸が物理的な圧迫を受けて、ひどい便秘の状態に追い込まれる訳だ。

それで私の場合、約半年毎に一回の割合で切除を試みたが成功せず、遂に昨年の十二月からは、メ

スによる切除は諦め、放射線療法に切替えて、目下その初回の効果を見極めている最中なのだ。

今のところ、腫瘍そのものの活動は可なり納まっているものの、可なり強力な放射線が腫瘍の周囲の健全な組織の細胞に及ぼす副作用が、私の場合は可なり顕著に反応が出て、未だに腰椎を中心にして、骨、関節や筋肉が、何種類かの疲労感を漂わせており、人工肛門設置の手術を含む可なり長期間の入院生活に依る体力消耗と重なり、未だに快適な体力回復にはほど遠い体調に、日夜悩まされている次第なのだ。

私のこの一病は、脊索腫の中でも大変条件の悪い場合だ——八十歳近い高齢であることも含め——という事で、専門医の間でも良い研究材料であるとされ、必ず若いお医者が私の経過に就いて、特に一貫して資料を整理している由であった。

こんな訳で、私のこの奇病が医学的に良い研究資料になっている事自身には、ある程度私の闘病気分には或る種の満足感を認め得ると思えるが、この闘病生活が私に与える肉体的精神的苦痛がかなりの程度だと感ずれば、この「ことわざ」が普通の軽い病気の場合に示

唆するところと可なり差があると考えられるのだが、果してどうだろうか。

静岡の思い出

43期 三好由三郎

私の小さい時から中学時代までの静岡の町の思い出をすこし書くこととした。思い出は、断片的で理論や関連もなくあいまいなもので、これを文章にすると味気ないものとなって難しいものだが、この私の思い出に繋るならば幸いである。なお、友人その他の人がほとんど係わるのだが、それまで書くことと大変な量になるので失礼させてもらうこととした。

最も古い記憶には大正三年の安倍川が氾濫して、大洪水となり床まで水に浸ったことと、同じ年に十八才年上の兄が青島出征でこれを静岡駅へ見送りに行ったことがある。

当時私の家は市内大鋸町の玄中寺の敷地内にあった。大鋸をオオガと読むことは広辞苑にはあるが難しい読み方だ。字の通り製材屋のある町だった。隣町は大工町と言った。どちらも静かながら気力を持った豊かな町だった。

その後私の家の住所は、大正五年（六才）に安倍郡西豊田村宇田

村足名（南町）に、同十三年（十四才）に市内相生町に、翌年には通車町に、そして昭和四年には再度南町に移った。どの住所からも小学校も中学校も可成遠い距離だった。実はそれが幸いして通学によって随分沢山の町を知り見聞を広めることができたようだ。静岡の思い出を豊富にし、また親近感を深くしたと思っている。

足名では、小学校と中学のはじめの頃を過したので特に思い出は多い。駅南の小さな字だったが、市に隣接していて、市に通じる新道もでき、区画整理もできて新開発地としてこれからという所だった。田圃もまだあり、空地などもあって、魚採り、三角ベースの野球など遊ぶに事欠くことはなかった。ここは湧水地域で、私の家でも湧き水があって、飲用水その他すべてこの水を使っていた。祠の池や田圃でも随所に湧水が砂をふき上げていた。

大正六年西豊田尋常高等小学校に入学、学校の前に軍神社があって境内には楠の大樹が繁り八月一日の祭の夜の尺玉の煙火が名物だった。学校までは二軒ほどだが一年生の子供には遠かった。旧東海道にはまだ松並木が帝帝としていた。五年生のとき中学入学試験に

備えて新通尋常高等小学校に転校した。東とか西とかの有名校へは残念だが認めてもらえなかったとのことだった。通学路の途中に宝台院があった。春日局の墓所で境内が広く、山門、本堂、庫裡など建築物はいずれも荘大だった。特に本堂の屋根の天上にせり上るような瓦の線は実に美事だった。正月には境内はサーカス等の興行や物売りなど賑い人出も多かった。

大正十二年、念願の静岡中学に入学できた。この通学路は駅前から市の中心部の繁華街を通るか、濠端に出て外濠か内濠のどれにするかだったが、どの道とどのよう

に組合せるかはその日その日の思い次第で、全く快適で楽しい通学だった。

翌十三年には、相生町に転居した。此所からの通学路は、お城の東側から北側の濠端を通るか、まだ田圃に残っていた東藤匠町から練兵場に出て熊野神社のわき道を行くかのどちらだった。練兵場は絶好の遊び場で、帰路では随分ここで草食を食った。しかし練兵場で兵隊が演習していたのを見た覚えがないのが不思議だ。

翌十四年には、通車町に転居した。一軒余ほどが安倍川橋で、土手通は旧街道の本通と隣接した並

行路だったから、古い町の名残りのある町並みで、家が稠密していた。学校へは土手通を直通して馬場町から外濠に出た。土手通は城下町の古い町に沿っているので、大小の旧商家も多く、繁華な町並みだった。一から八までの番町には古い大きな住宅が整然としていた。

こうして昭和三年春には無事中学を卒業し、次の進学もできた。その後、住居は再び南町に移ったが、昭和七年大学入学で静岡を離れた。その後家も他所に移ったので静岡に帰ることも無くなった。住居と通学路などの思い出を書いてきたが、これから特別の思い出をいくつか書いてみよう。

大正十五年全国中等学校野球優勝大会で静岡が優勝した時、四年生だった。神戸に親せきがあったので、高松中学校を除いて他の三試合を甲子園で応援することができた。十九回の延長戦、優勝戦の勝利は正に感激だった。

中学の帽章が変わったのは二年の時、新章も良かったが旧章も捨て難いものがあった。静中生の誇りが端的に表示されていたからかも知れない。後から思ったが、帝大の帽章は、どの大学でも最後まで大学の字形だったようだ。

駿府城の内濠外濠共に良かったし、周辺もまた実によかった。内濠の石垣、土手、水の色、そして周辺の教会、不二女学校の校舎、知事官舎、県庁、藝文庫、附属小学校、師範学校、刑務所などどれを見ても静寂そのものだった。外濠の追手町側の官庁、学校、御用邸、静岡倶楽部など立派な建物だった。そして濠側の柳並木が新緑の頃きれいだった。西草深、東草深、水落あたりの高級住宅地も良い環境だった。

呉服町通りは銀座、七間町は浅草、両替町辺りは神田、そして紺屋町は新橋。これは後から私の考えたところだ。いずれも何とも良い町で、そして上品で決して騒然としたところがなかった。

賤機山、谷津山、八幡山そして安倍川などは天恵の良い環境だ。別に考えると、これに小嵐山、久能山、海岸を加えて、家康は要害堅固な駿府城を選んだのではあるまいか。

桜湯は七間町と宝台院の前の通りとの交叉する角にあった銭湯で、おそらく静岡一の大きさだったと思う。脱衣場が独得で広くゆとりし浴湯部分と横に並んでいて、浴場との仕切りが透明硝子張り、どちらからも見えるようになっていた。更に奥には岩づくりの池に魚が泳いでいた。正に静岡温泉岩風呂。

静岡キネマは七間町と両替町の交叉する角にあった洋画専門の高級映画館だった。中学一年のとき兄に伴われて洋画「サロメ」を観た。女が老人の男の頭を盆に乗せてくるシーンだけが印象に残っている。如何に有名人文芸作品でもまだ理解出来ない筈だ。

若竹座は寺町通りで、七間町の角から先にあった芝居小屋で、昔風の本格的な歌舞伎劇場だった。今もあれば讃岐の琴平歌舞伎以上の由緒ある劇場となったと惜しまれる。小学生のころ兄の仕事の関係で、この芝居小屋で菅原伝授手習鑑が上演されたのを見た覚えがある。

安倍川に近い新通から入った所に三方田圃に囲まれた一画の建物があった。二丁町といった。小学生も低学年のころだと思いが兄のお伴でここでおいらん道中を見物した。不思議なものを見た思いだった。近時よく催される行事のものと同じようなものだと思うが、もう少し年をとっていたら行かなかったと思う。「ギヤアロが鳴くんで雨ずらよ」の歌詞は比喩で生まれたと言う伝説があるが真偽の程は分らない。

安倍奥の森林に恵まれて、静岡には木材に関連する職業が多かった。製材業、大工職、家具製造業、指物屋、下駄職などが、本通、新通、土手通などの横道によく見られた。住所が近かった故か、仕事場を外から見ているのが好きだった。木を切ったり削ったりするときの木の香り、膠の煮える匂い、組立てた箱を素早く組紐でキリリと捲き締めて次々と積上げて行く手際、しかもその組紐が一本だったりして全くなつかしい。漆塗りの仕事もよく見た。

中学のことを書くのが本当だが書けば山ほどあるし、この思い出は諸氏も同様だと思って今回はやめることとした。

静岡もますます発展して行くことと思うが、静岡の町の古く風格高い歴史は守って行ってほしいと思う。静かで、穏やかで、まじめでそして明るい静岡の町よ。

人間生態学について

46期 山本 幹夫

何故こんなことになっているかという、現在私の看板になっている教科は、ヒューマンエコロジー（人間生態学）という学問を大学院の学生の選択科目として教えているからだ。

簡単にいうと人間の生きざまに関連して生きている環境の問題をもふくめて考える学問を教えることにしているが、最近二三年は大学院の学生でこれを受講しようとするものがないので、その間は大学で教えない。

自分としては一九六五年ごろから続けている、色々の環境条件が日本人の健康や生存にどんな影響を及ぼすか地域的な研究を細々と続けているのである。

人間生態学は、米国の公害問題がやましくなった時に、この問題を解決するための科学的な基盤として、この学問が用いられ、大統領の報告にもあらわれるようになってからである。

元来環境を含めた、人間のいきざまが生活条件からどのように影響されるかを、じみに研究して来たこの学問が、一挙に社会の問題と一緒に大きくクローズアップした形になってから、世間が大きく関心を寄せるようになった前述の状況の中で、素人から見ると、十

分の分析をするのには可成りの専門的知識を必要とするため、具体的な研究は専門家にまかせられて、その研究結果だけを頼りにして、一人歩きしているというのが実情になっているのである。

しかし、その方面のことが本当に分っている専門家が極めて少い中では、これを用いて、人の生存を守り、環境を改善したりすることの必要性に対する認識はどうしてもおくれがちである。しかし、コンピュータを中心として情報科学を十分に駆使すれば、これらの科学を一層すすめることが出来るのである。

わが田に水を引こうとすることにはなるが、わが国でももっともところの様な人の生命にかかわる基本となる学問について関心と努力が払われないと、本当に幸福な国民生活は開発されないのではないか。(帝京大学医学部客員教授)

「下野は ぐい」 訂正補足

64期 渡辺 素夫

先号の鈴木明郎君の「シモノはいつこ」を拝読し、同君の記述を訂正補足したいと思う。

同君がシモノ氏を世界史の先生

と書いているのは誤りで、氏は地理の教師であった。私達が入学したのは昭和十八年で、一学期の地理担当は退役陸軍少佐ヌマカンと沼館先生でした。ヌマカンに「樺太」を習ったところで先生は軍役に復帰され、シモノに地理を習うことになった。当時の地理学習は「地誌」中心であったが、シモノは、毎週各地域別に地図を書いて提出するのを宿題とする以外地誌を教えようとせず、教科書も使用しなかった。授業内容は「産業地理」であった。石油について日本の産油量、世界の油田地帯、分布図、そして石油の代替物や含有物について講義され、まるで鉱物の授業であった。現在私の記憶に残っている石油含有物は、松根油と油母ケツ岩である。シモノの変わったのは、授業ばかりでなく、授業中に語る時局批判にあった。「そのうち運動場は農場になるぞ」「教練で使っている三八式歩兵銃は、軍隊が武器不足になり返却せられる」「この校舎もやがて軍隊の兵舎になる」「君達は工場に動員され、最後は竹槍を持たされ国土防衛隊員になる」等々……。その度に、神国日本の不敗を信ずる様に子供の時から教育されて来た私達生徒の方は「非国民」

「敗北主義者」「憲兵に逮捕されるぞ」と言ってヒソヒソ私語し、とんでもない事を言う先生だと思っていた。当時の静中校長間処武夫は、狂信的とも言うべき国家主義者軍国主義者で、朝礼・祝日・記念日機会あるごとに尽忠報国を説き、そのアジ演説は想像を絶するものでヒットラーばりであった。背広姿で敬礼はお辞儀であったシモノは態度服装だけで既に異端の人であった。非国民シモノは、憲兵に逮捕されなかったが、その代わり彼に招集令状が舞い込んだのは二期の終わりの頃だったろうか。シモノの別れの服装と言葉は私達の意表を突くものだった。戦闘帽を冠りゲートルを巻き、カーキ色の国民服を着て登場したのである。アッと驚く私達を前にシモノは更に強烈なパンチを放った。「不肖シモノは、大元帥陛下の命により入隊することになりました。……」時局批判者のシモノの事である。私達は相当手厳しい批判的言辞を秘かに期待していたのに、全く逆な大時代の挨拶に度胆を抜かれた。この挨拶も現在振り返って考えてみれば、シモノらしい大変な皮肉であることが分る。鈴木君も述べている様にシモノは子供に近いチビであった。あのチビでは

恐らく丙種であつたらう。戦争末期には丙種も徴兵されたが、本土決戦のための内地配備であり戦死した人は皆無である。あの時期、本人は勿論私達生徒も丙種のシモノが徴兵されるとは思いもかけなかった。戦後、徴兵事務に従事していた人の秘話を讀むと、かなり懲罰的招集が横行していた様であり、シモノの招集も懲罰と断定してよからう。この命令に対し「不肖シモノは大元帥陛下の命により……」と応酬したのである。鈴木君は天皇陛下の命によりと書いているが、ここは天皇でなく大元帥でなくてはシモノの真意と皮肉・ウラミは生きてこない。現代の若者にすれば、天皇でも大元帥でも同じ昭和天皇を指しているからどうでもよいと言うだろうが、真理を愛したシモノには大元帥でなくとはいけないのだ。立法行政司法の三権の最高統治者の天皇でなく陸海の最高統率者即ち統帥権者である大元帥陛下の命令である。言外のシモノの無念・憎悪・反感を想像すると胸を締めつけられる思いがする。シモノが去った後の日本と静中の運命は、全く先生の予言の通りの事が次から次へと起り、敗戦を迎えてしまった。シモノは、ビルマ戦線で散ったと言う

人もいれば、南方への輸送船が攻撃され戦死したと言う人もいる。戦後の荒廃の中から食うや食わずの生活をしてた当時の私達は、人の死に対してたいして感動も湧かず、「そうか……」といった程度であった。鈴木君の投稿によってシモノというすばらしい先生が静中にいて、あの狂気の戦争中に自分を見失わず、真理を愛し冷静な眼で時局の推移を予言し、勇気を持って日本の進路の誤りに警鐘を鳴らし続けた教師の存在を想起させて戴いた。シモノは、地理の授業を通して近代戦の勝敗は国力の優劣に依存しており、基本エネルギーである石油一つとっても、米英との差は歴然としており、松の木を掘り返して松根油などという劣悪な油を微量採集してもナンスであることを生徒に認識させたかったのであろう。言うなれば、全世界の視野、グローバルなものの見方を私達に教えたかったのである。戦争批判者であり、偉大な時局の予言者シモノは真の教育者だったので。戦争中、静中のすぐ近くの外濠に面した借家にシモノは住んでおり、若き奥様と生まれたばかりの子供を乳母車に乗せ散歩していた先生に、放課後よくお会いしたものである。歩行

を停止し、挙手の敬礼をすると、先生は照れながら会釈を返され、大柄な若き奥様からは「この無粋者」と言った眼で見返された事をつい昨日の様に思い出します。

下野先生のご冥福を祈ってペン置きします。

〈付記〉

下野和夫先生は昭和十七年四月に静岡に赴任され、個性豊かな授業・教育をされましたが、十九年十月召集になり、これはもう敗戦そのものだと言われて出征されました。そして翌年の二十年十二月シベリアのチタにて戦死されたとのことでした。

由起子夫人はタイプを教えながら娘さんを立派に育てられ、名古屋市西区押切町で、今は二人の男のお孫さんにも囲まれながら、チタ墓参を夢みつつお元気に過ごされています。(60期 上杉重吉)

吉野ケ里と登呂遺跡

67期 福原 亨一

佐賀市の北東、約十キロにある吉野ケ里(よしのがり)遺跡は、女王・卑弥呼の邪馬台国に結びつくのではと古代史ファンの注目を集めている。

今春、新聞協会の論説責任者会議が佐賀で開かれた機会に吉野ケ

里を訪れ、発掘の実態とともに、お国自慢や地域振興の夢も重なって急激に高まっていく熱気に肌で触れることができた。そして同じ弥生期に属する登呂遺跡の調査が身近な話題であった静岡の学生時代を懐かしく思い出した。

三月十日の会議の数日前、地元で準備役を務める佐賀新聞の河村論説委員長から、会議直前に見学バスを仕立てるから参加するようにとの速達案内が届いた。好天に恵まれ、委員長と県職員案内で遺跡の魅力を十分に味わうことができたが、その印象は同行したT論説副主幹の筆による(と推定される)朝日新聞四月二十五日付社説の冒頭の一節を借用したい。

「吉野ケ里遺跡ほど『面白い遺跡』を見たことがない」

考古学の森浩一・同志社大教授はこう感想をもらした。現地を訪れる人は、その言葉にうなづくに違いない。

遺跡は、広大な佐賀平野の一角に広がっている。背後に背振山、南に有明海をのぞむ丘陵地で、おだやかな陽光がふりそそぐ。これまでの遺跡といえば、湿度が高く、うす暗いもの、というのが素人の先入観だが、ここはまるで異質だ。(引用終)

Tさんが登呂を念頭においていたかどうかは分からないが、水田跡である登呂が湿度の高い印象を与えるのは確かだ。

規模を比べると、登呂は約八ヘクタールが発掘調査され、そのうち五・九ヘクタールが現に静岡市の史跡公園として保存されている。一方、吉野ケ里は南北一キロ、東西四百メートルにわたって幅六・五メートル、深さ三メートルの環濠が連なり、約三十ヘクタールの遺跡が丘陵の上からほぼ一望できる。

市街地に接する登呂の全容はもともと把握しきれなかったし、別にうす暗いとも思われないが、吉野ケ里の広さと明るさのすばらしさは文句なしだ。

登呂の出土品は住宅、倉庫、水田の遺構や木製の農具、狩猟具、漁具、土器、銅製品など豊富だし、敗戦直後の日本で異例なほどの大規模、組織的な調査が行われたこと、これをきっかけに日本考古学協会が設立されたことなど、登呂遺跡は記念碑的存在といえるだろう。

吉野ケ里も望楼、住居、倉庫などの遺構に加えて、ぼう大な数のカメ棺、墳丘墓、銅剣、ガラス管など多彩な出土品を誇っているが、

なんといっても三世紀の中国の史書「魏志倭人伝」に記述された邪馬台国につながる遺跡とみられる点に最大の特徴がある。

邪馬台国は北九州か畿内か、日本の学界を二分して長年たたかわされてきた大論争に吉野ケ里の発掘で決着がつけられるわけではないが、邪馬台国と並んで記述されている多くのクニの一つ、特に「弥奴(みな)国」と吉野ケ里が結びつくのではないかとの説が有力のようだ。

その魏志倭人伝だが、手元の岩波文庫版をみると一九五一年(昭和二六年)に初版が出てから八三年(同五八年)までに四十二刷、二十五万五千部が発行されている。硬い学術書の訳本としては驚くべき数字といえよう。

三年前、自衛隊の基地見学で対馬を訪れたとき、地元案内書がほとんど例外なく魏志倭人伝の文章を利用して対馬の地勢、生活を紹介しているのに驚いた記憶がある。原文の漢字にしておよそ五十字ばかりの簡潔な説明が、いかに適確に対馬を描いているかを裏付けられるもので、中国の史書を基準に古代史の論争が延々と続く秘密の一端を見せつけられる思いがした。

魏志倭人伝の權威を借り、ナゾの女王卑弥呼をキャンペーンに動員してPRが展開できるのは、吉野ケ里の絶対的強味で、その国際性、話題性には一目おかなければなるまい。

吉野ケ里遺跡はゴールデンウィーク最終日の五月七日に一般公開を終了、貴重な遺跡が風化しないよう、いったん埋め戻した上で将来の調査や復元公開に備える。遺跡の全容が伝えられ始めた二月下旬からの見学者数は百五万五千人と発表された。

登呂遺跡の見学者数が年間ほぼ百万人というから、期間の短かさ、周辺の人口、交通事情などを考え合わせれば異例な人気集中ぶりだった。

登呂は一九四三年(昭和一八年)軍需工場の建設工事中に偶然発見され、吉野ケ里は県開発公社の工業団地開発調査中に発見された。開発の際に遺跡が出て来る例は少なくないが、これをいかに調査、保存するかは常に面倒な問題だ。吉野ケ里は、当初から六十五ヘクタールの工業団地のうち六ヘクタールを緑地として残す予定だったが、遺跡の発掘に伴い、佐賀県知事の決断で二十四ヘクタールを遺跡公園とすることが急に決まった。

た。直木賞候補作家でもある河村さんが同紙のコラムで「知事の英断」と賞賛、話題になったのは小生の佐賀滞在中のことだった。

会議のおかげで全国のマスコミの同僚に佐賀を紹介できるのは本当にうれしい、といって、市内

の大隈重信の生家、有田町の九州陶磁文化館や十四代柿右衛門の窯元、鎮西町の名護屋城跡などを熱心に案内、紹介してくれた河村さんだったが、一ヶ月後再会した折、小生が静岡出身と知ってか知らずか「おかげで吉野ケ里も少しは名を知られるようになった。これから登呂のように天皇や首相にも来てもらわなくては」と語りかけてきたのには驚いた。

登呂博物館に問い合わせると、確かに昭和天皇、皇太子時代の現天皇、竹下首相もみんな登呂を視察しているとのこと、河村さんの熱烈、周到な愛郷心に改めて脱帽した次第だ。

△共同通信 論説委員長▽

42期岩崎康さんの近況

68期 荒谷じつ子

宮澤会長を中心に結末の堅い42期が十五年の長い間関東同窓会を盛りたててくださっていました。その一人岩崎さんが病に倒れ、外

出不能になり淋しく思っていましたところ、総会の次の日、奥様より外出も少しはできるようになりましたが、まだ心配なので大事をとり、近所でお食事などいかがとの誘いがありました。

過ぐる五十九年九月、長野県で二度目に倒れた時、ソニーの盛田様御家族の御協力と、日本一の医師の五時間もかかった大手術のあと、奥様の献身的な御看病により奇蹟的に助かったそうです。

お会いしてビックリ！ 相変らずのダンディ振り、元気の良いお話ぶりに、頼もしさを感じ、この喜びを同窓の皆様にお知らせします。

当日はお嬢様と奥様と四人で、お嬢様は週刊朝日に「ハーバード留学経験を持つ日本のビジネスエリート達」で紹介された二人の女性の一人佐藤恵子さんと、世界を飛びまわる国際人、お父様の為に、お忙がしい時間を割いて、細かい心くばりをなさっていらつしやるのには感動しました。御長男もソニーの盛田会長の御媒酌で御結婚、三人のお子様にくぐまれ、世界を飛びまわって御活躍なさっているそうです。

御回復の原動力は、スバラシイ御家族の愛であると、お話をしな

がら実感しました。来年の総会には、お元気なお姿で御出席下さるのを楽しみにしています。

歩くという事

70期 杉田 順

静岡高校は七十期の卒業、おのずと年齢は決まることが五十三才、ついでに結婚してから今年が二十五年、銀婚式というしになった。しばらく前迄は五十才とか、銀婚式とかいう事ははるか遠い事思っていたがそのとしになって見ると、ああもうかという感じになって、こわいようである。

さて、突然話が変わるが、私の家は横須賀線東戸塚の駅から歩いて二十分位の処にある。ほんの一年位前迄は氣候、天候さえ良ければ自宅から駅迄歩いて通っていた。通り路の家々の木々や花等、季節々々の変化が面白く、又良く手入れをされている御宅も多いので、楽しみながら歩くのが好きであつた。しかしふと気がついて見るとこのところ、全然歩いていない。ほんの数駅のパス停分も、バスの来るのをいらいらしながら待つようになつてしまつた。というわけ、タイトルの「歩くという事」というのは、世の諸賢のように健康の為に、楽しみの為によく

歩いていますという話ではなくて、駄目になつたなあ！という悔恨の情の記である。

元来、歩く事、あるいは体を使う事は好きな方である。私は小学校(当時の国民学校)の頃は仙台の片田舎で育ち、一時は一里程も歩いて学校に通っていた。静岡に転校後も、自宅のある古庄から東豊田小学校迄二料(もないかな?)程も田圃の中を歩き、静高へは日吉町から延々歩いた。今の学生諸君はどうしているのだろうか？そのせいか大学で東京へ出、就職で横浜に居をかまえても、結構歩き回っていたと思う。勿論、歩く事自体に意識をもっていたわけではなく、やたら歩き回っても平氣だつたというに過ぎないが。

それが始めに書いたように、ほんのそこ迄でもバスを待つようになつたことに愕然としているという次第である。

又々話題が飛ぶが、ここ十年程地域のミニバスケットボールクラブの面倒を休日を利用して見ている。ミニバスとは小学生のバスケットボールで、小さな子供相手に(最近では私位の上背のある小学生も時々いるが)丁度良い運動だと、趣味と実益を兼ねて楽しくやつてきた。ところがこのところ、

小学生にもついていけなくなつたなあと心細くなることが多い。これも歩くのが億劫になつたのと同根であらうか。

いろいろ書いたが、結局、体力のなくなつたのを蔵相応?に悲しんでいるという次第である。唯、やたら悲しんでというのも氣性に合わない。何とかしたいのだが、自分の意志で突然変身するといふ程の自信もない。だらしない話だが同窓諸兄の中で、何かキッカケとなるサジェスションを下さる方は居られないかなあ、という氣持ちである。大体こんな状態だから駄目なんだと自戒の念は充分に持ちつつ同窓会誌の氣安さで勝手なことを書かせていただいた。

北の国から

71期 浦田 彰

K君 青森に赴任してもう一年近かつた。御無沙汰している。

空の旅なら一飛びだが、陸路を考えると、静岡は確かに遠い。新幹線があればとは思ふが、それも当分無理のようだ。狭いようだが日本列島まだまだ広い。まごまごしていると、盛岡以北一山百文なんて自嘲気味な声もあるけれど、市民の切ない願いを託したJR青森駅前の「一日も早く新幹線を青

森へ」という大看板が目にしみる。鉄道といえば、今、東北本線という名称について、北関東の宇都宮あたりから「東北」線というのはやめてほしい、田舎臭くてダサくてマイナーなイメージだ。キョウビ宇都宮から東京へどんな通勤している。宇都宮以南を宇都宮線と改称してくれないかという話である。

K君 東北はそんなに田舎っぽくてダサイか?とんでもない!こんなに豊かな物産と、ふところの深い自然と、何よりも都会のデラシネたちが必死に求めている「ふさと」感覚に溢れた土地はここにしかないと思う。

いろんな会合でわりとウケる僕の話にこんなものがある。青森の人は自虐的に自分の土地のことを、田舎だとか遅れているとかよくいうが、青森は一周遅れで気がついてたらトップを走っているランナーのようなもので、今やそれがナウくて新しいんだ、考えてみれば青森には東京にないものが全部あるじゃないか、豊かな自然にきれいな空気、それに何んたって安い土地がふんだんにある。そうしたものの提供を条件に東京都と合併したらどうですか。もちろん対等合併で……これには、青森の人の自

尊心もくすぐられるらしい。

そこで僕は図にのって、話を比較文化論に飛躍させる。文化には二つのタイプがある。「街道文化」と「端っこ文化」だ。静岡は街道文化で青森は端っこ文化ということになる。街道には確かに新しいものがどんどん入ってくる。しかし通り過ぎてゆくだけで溜らない。さらにやかにみえるけど底は浅いのではないか。そこへゆくと、端っこにはモノが溜る。幾層にも蓄積された文化が育つ。津軽文化というのは確かにあるが、駿河文化というのはあんまりきいたことがない。人材も同じこと、近代日本をつくったのは本州と九州の端っこ長州と薩摩だったではないか!端っここそ中央なのだ。とこんなぐあいに話すんだが、青森っ子は満足気にうなずいてくれる。

知らない土地で暮らすのは気骨の折れることだが、何んとか土地っ子に気に入られたいと願うのも転勤族なればこそ、こんなこじつけ文化論も他国で暮らすヨソモノの知恵なのだと思うてくれ。

さてK君、有史以来の暖冬とかで、当地も雪が少なく拍子抜けの感だったが、それでもアパートからみえる八甲田の山々はまだ雪景

色。30分も走れば夏スキーマのカだ。それに、山麓はこれからが新緑のシーズン、残雪のなかで緑を競うブナ林はそれはもう見事なものだ。僕のいる間にぜひこの北国の自然を味わいに来てくれ。ホタテの刺身にイクラにアワビ、旨い地酒も待っている。

(NHK青森放送局)

雑 感

74期 藤原 経史

七四回生にとつて、今年(平成元年)は意義深い年である。

かつては「人生五十年」と云われ、又古人曰く「五十にして天命を知る」年代に突入する。

これから五十年を生きようと思えば、(生かされると云う事)今までの四倍も五倍も努力しなければならぬと思う。

歴史、伝統の重みと申しもしょうか、本当に、日本はすばらしい発展をし続けて来た。これも天の神のみぞ知る事と思う。すばらしい自然環境、海に囲まれたこの島国、神様は本当にすばらしい恵みを日本人に与えてくれた。資源は少ないが、すばらしい自然環境と情緒あふれる人間性、日本人はこの恵みを忘れてはならない。最近の世の中の流れを見ていると、

と、末恐ろしい気持になる。

我々の年代を含め、日本人として、又この地球上に生きる人類の一人として、古人の言葉ではないが、『六十にして五十九の非を知る』『六十にして六十化する』この気持を忘れないで生きたいものである。

76期 鈴木 浩

エネルギー問題が、新聞紙上ににぎわせたのはもう大分前のことになりました。資源の有限性は変わらぬのに世の中の動きは、当時に比較して様変わりとなつて、のどもと過ぎれば何とかでエネルギー多消費の生活へと向かっています。

かつて多くの情熱がそがれたバイオマス、石炭の液化、石油の作れる植物等々、原子力発電所の事故、条件の悪い油田の事故を見聞きする度に考えさせられる昨今です。年をとったばかりでなく近頃のあまりの豊かさ(見かけ上の?)には気持ちがなかなかついていきません。

話し変わりました、今年の夏あたり久しぶりに静岡に甲子園に出場してもらいたいと祈っております。

株式会社 越 士 越 化 成
株式会社 富士越化成

代表取締役 野 澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東 2-14-9

TEL(409) 3342(代)

TEL(400) 9541(代)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科

人間ドック かん 熱 函 病 院

院 長 小 坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

静岡だより

現役、OBともに快勝

対静岡定期戦

第三十一回静岡高対静岡商の野球定期戦は、快晴の四月二十九日に静岡球場で行われた。スタンドは、ゴールデン・ウィークの初日を楽しま家族連れの両校OBや在校生、地元ファン一万人で埋まった。

両校は三回まで二―二と競り合ったが、四回以降、静岡が機動力を発揮して、合計十二安打を放って得点を重ね、七―二の大差で静岡を三年連続で退けた。これで戦後の対戦成績は静岡の二十勝十一敗となった。

試合は、初回静岡の先発大橋から、リードオフマンの黒田がセンターオーバーの二塁打。きっちり送った後、三番のキャプテン大石がレフトへ高々と機飛を上げ、先手を取った。静岡も、いったんは調子の出ない岩崎を攻めて二―一とリードしたが、静岡は三回に大石の連続の機飛で同点とし、四回には、大石・岩崎・牧野の三安打

と二死球、一失策で三点を入れて静岡を突き放した。

この日のラッキー・ボーイは大石。ここごとくチャンスに打席が回ってきて、二打数二安打、三機飛で四打点の大活躍だった。一方エース岩崎は、三月末の左ヒザのねんざで体のキレと腕の振りが悪く、五回までに九安打を浴びる苦しいピッチングだったが、要所を抑え、七回を投げ抜き飯泉につないだ。

現役戦

静岡	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
静岡高	1	0	1	3	1	0	0	1	X			7

このところ中部勢がさっぱり的高校野球だが、静岡打線の爆発と粘りは、二年ぶりの夏とりへ向けて、ファンに明るい見通しを持たせた。

また、前座試合として行われたOB戦では、静岡OBチームが八一五(時間制四回終了)で逆転勝ちし、昨年の雪辱を果たした。わずか二時間足らずの短い時間だったが、静岡三十四人、静岡三十人のベンチ入りのメンバーたちは、

久しぶりのグラウンドでのプレーを楽しんでいた。船川監督も二打席目に空振りの三振を喫して「こうしてはいけないという見本を示した」と苦笑いしながらも、楽しい一時を過ごしていた。

(85期 吉水 広)

OB戦

静岡OB	2	3	0	0
静岡高OB	0	4	3	1
	8			5

延長18回涙をのむ

春の県大会

また、春の高校野球県下一をかけた春季高校野球県大会が、五月六・七・十四の三日間、静岡・焼津両球場で開催された。静岡は中部地区大会で三位だったものの、強力打線の評判が高いうえに、エース岩崎の復帰も伝えられて、優勝候補の一角に数えられていた。

五月六日、折からの雨をついて行われた静岡対修善寺工の試合は、壮絶を極めた。

静岡との定期戦で好投して、完全復活かと期待された岩崎が、序盤に修善寺打線につかまり、四回までに八点を献上。この時点で七点差がつき、試合は決まったかに思われたが、静岡も持ち前の強打で反撃を開始した。

四回に三点、五回に二点と着実に点差を詰め、その後立ち直って五回以降を零点に抑えている岩崎の好投に報いて、ついに九回裏の土壇場で二点を入れて、八―八の同点に追いつき、試合は雨の中の延長戦にもつれこんだ。

十回以降は息詰まる投手戦。十回からマウンドを引き継いだ抑えの飯泉が六イニングを零封するも、打線の援護なし。ついに、十八回に修善寺工のクリーンナップトリオのバットが火を噴き、連続単打と三塁打・とどめのホームランで四点を失い、四時間五十七分に及ぶ雨中の熱戦にピリオドが打たれた。

修善寺工(東部四位)

静岡高校(中部三位)	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
修善寺工	1	0	0	3	2	0	0	0	2	0	0	0

静岡高校 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 8

なお、この大会の優勝は、創部わずか七年の常葉菊川高がさらった。昨年の秋の大会の覇者池新田高の活躍が目立つ昨今だが、やはり我々の古くからの高校野球ファンとしては、伝統校の奮起を望みたいところだ。(85期 吉水 広)

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成岡 英彦 (67期)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル
TEL 03-363-8604 (代表)

国際線航空貨物・海外旅客取扱
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号

株式会社 フジ・ワールド・エンタープライズ

代表取締役 中馬 敏雄 (70期)

〒105 東京都港区浜浜町2-8-9 春原浜松町ビル

貨物電話 434-0591 (代)

旅客電話 437-5861 (代)

FAX 434-5537

北の神秘と時代の動き

中国占星術(算命学)

五敬閣 杉山博康

(47期 杉山栄一)

奥野副会長の紹介

昭和七年に杉山さんが静中を卒業した頃は、不景気で就職難の時代でした。どんな学校へ進み、どんな職業についたらよいか迷い、運命学に興味をもち、あらゆる占いを勉強しました。日本軽金属に就職し、日軽商事を退職し、昭和五七年から占いを開業したので

す。静中静高の卒業生の中では、珍しい仕事につかれた方です。

占いに關しては、占いの好きな人もあり、嫌いな人もあると思います。占いなどに頼らないで、立派にご成功された方も多いでしょう。どうぞ気軽な気持ちで、私の話を聞いて下さい。なるべく皆さまのご納得がゆく話をするつもりです。

◎陰陽説(おんようせつ)

この世の中には男と女しかない。動物をみて雄と雌、植物を

みて雄花と雌花しかない。男を陽、女を陰とします。

古代の中国人は天が陽なら地は陰、星が陽なら夜は陰というように、世の中の事物や現象を陽と陰とに分類しました。これが陰陽という二元思想です。

◎五行説(ごぎょうせつ)

中国哲学の特徴として、世の中に存在する一切のものは、木火土金水の五元素から出来ていると考え、これを五行と呼びました。

木は火を生む、火は土を生む、土は金を生む、金は水を生む、水は木を生む。これを相生といい、世の中のすべての事はこの法則のつとて循環します。

逆に木が土を、火が金を、土が水を、金が木を、水が火を、やつけることを相剋と申します。

陰陽説と五行説とが合体して陰陽五行説という古代中国の思想になりました。私たちの現在の日常生活、習慣、行事などの中に陰陽



(第一図)

五行説は汎山とり入れられていま

当てはめま

◎時計の文字盤を参考に

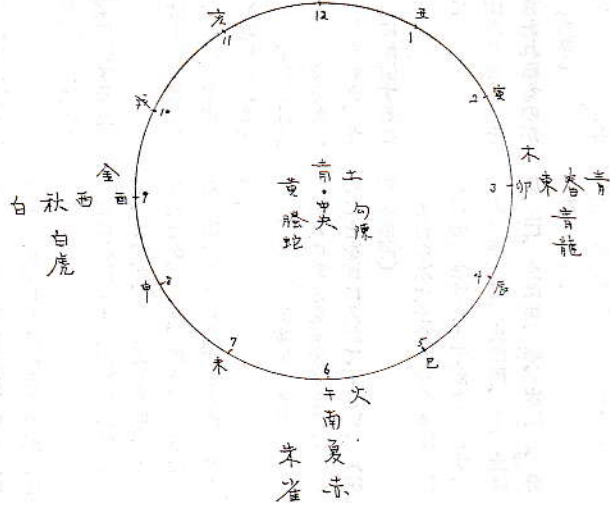
われわれの環境を一つの円に描き、その中に東西南北を置き、これに時間や十二支のエト、五行、四季、色彩などを配しますと：

(第一図参照)

北は水、冬、黒。東は木、春、青。南は火、夏、赤。西は金、秋、白。中央は土、土用、黄になりま

す。更に北に玄武、東に青龍、南に朱雀、西に白虎、中央に勾陳、

とうだ(蛇の一種)などの動物を



◎北極星は動かない

古代中国人は北の空に輝く北極星が動かないことに気づき、深い関心をもちました。この星が動かないことを利用して、旅や航海をする際に方向を定める大事な目標にいたしました。

さらに北極星の周囲を、一年間

にきちんと廻る北斗七星にも興味をもったのです。動かない北極星こそ、神様が住んでいる星であ

り、天の王様の天帝が居られる場所だと信じ、北斗七星は天帝を助け、輔弼の役をする大臣の星だと考えるようになりました。

北極星と北斗七星の位置の關係を曆に應用して農耕に役立てたり、旅の無事を願って、北極星と北斗七星を有難い星として祈るようになった。

◎北は南に勝つ

歴史をひもときますと、北について興味深い事実が見られます。それは北と南が戦争をすれば、北が勝つ場合が多いのです。

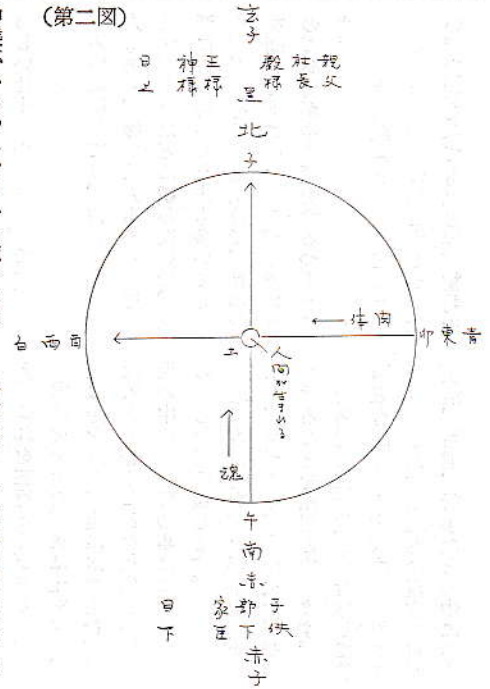
例えば日本の南北朝の戦争では後醍醐天皇の南朝が敗れ、足利尊氏の北朝が勝ちました。

アメリカの南北戦争も北が勝ち、最近では北ベトナムが南ベトナムを征服しました。

中国では、北からの外敵を防ぐために万里の長城を築いたわけですが、北の都モスクワへはナポレオンもヒットラーも攻めこめませんでした。赤道を中心にして考えても、大国や大都市は圧倒的に北に属することに気づきます。

漢字には「敗北」という熟語があります。この言葉が現在にまだに消えずに使われているのを見ても、大事な事実が隠されているような気がします。古代人は北には

(第二図)



神様がいらつしやるから強いのだと信じていました。

◎「北上」と「南下」

中国では宇宙の氣(エネルギー)は南で生れ、北へ向って進むと考えました。

「北上」という言葉があります。その代りに「南下」という言葉があります。

この考え方は仏教では、魂は南で生れて北へ向って進むといわれ、死者を北枕にする習慣になったようです。

肉体は東で生れて西へ進む、魂と肉体が中央で合体して人間が生れる。魂は北で死んで黒色になり、肉体は西で死んで白色になると考えられました。

葬式のマークが黒と白になったのはこういう理由からです。(第二図参照)

◎北は目上の位置

北は神様の位置から王様の位置、殿様の位置、社長の位置、父親の位置というように目上の位置として尊ばれました。

殿様の奥方を「北の方」「北政所」と呼んだり、城の本丸を「北の丸」と言ったり、「君主(君子)は南面す」：などと申しますのはこういう理由からです。

反対に南は臣下の位置、部下の位置、子供の位置と考えられ、目下の位置として扱われてきたのです。(第二図参照)

◎北極星と

北斗七星の神格化

北の神秘が北極星と北斗七星を神格化させました。そこで生れた神様を仏教では「妙見菩薩」と申します。

神道では「太一」という名前をつけて、天武天皇が北極星を伊勢神宮の内宮へ、北斗七星を外宮へお祭りいたしました。

妙見菩薩に祈って成功した人は幕末の剣客千葉周作で、北極星の別名「北辰」をとって、北辰一刀流の道場、玄武館をお玉ヶ池に開いたのです。

◎社長室は北にとれ
北の神秘性を現代に活用しよう。

社長室を北にとり、社長は北を背にして、部下を南に配する坐りがベターです。

応接室も主人が北を背にして坐り、客を南に坐らせれば、宇宙のエネルギーは南から北に流れます。

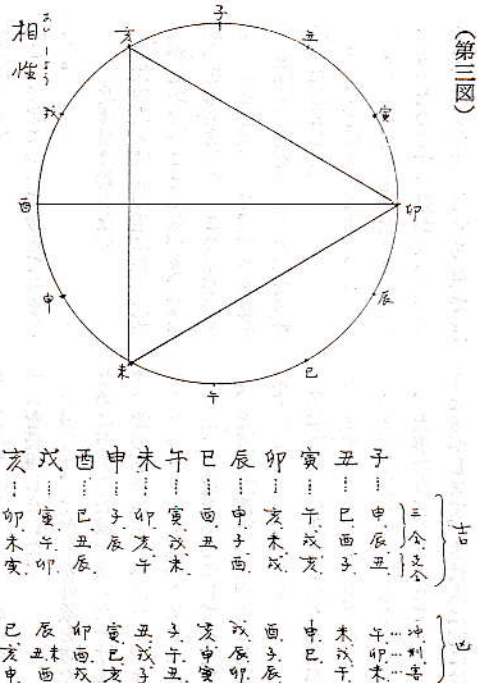
ので、商談が有利になるわけです。部長や課長さんたちも、気分転換だと言って、机の位置を替え、北を背にして部下を南に配置することをすすめます。

◎相性について

相性は見方が沢山あります。その中で一般によく言われるのがこれです。(第三図参照)

子の反対が午、卯の反対が酉と

(第三図)



いうように、正反対が互いに凶になり、正三角形になるものが吉なのです。

この相性(第三図)は結婚にも使いますが、それよりも取引先の社長とか、上司、同僚、部下などの仕事関係に利用する方がベターです。

◎十干、五本能、五徳

時代の動きを研究する前に、次のことを頭に入れて下さい。(第四図参照)

五行の木火土金水を各々陽と陰とに分けますと十干が生れます。

木は甲、乙、火は丙、丁、土は戊、己、金は庚、辛、水は壬、癸になります。

五行を人間の本能に当てはめれば、

木は守備、火は伝達、土は引力、金は攻撃、水は習得の本能になります。

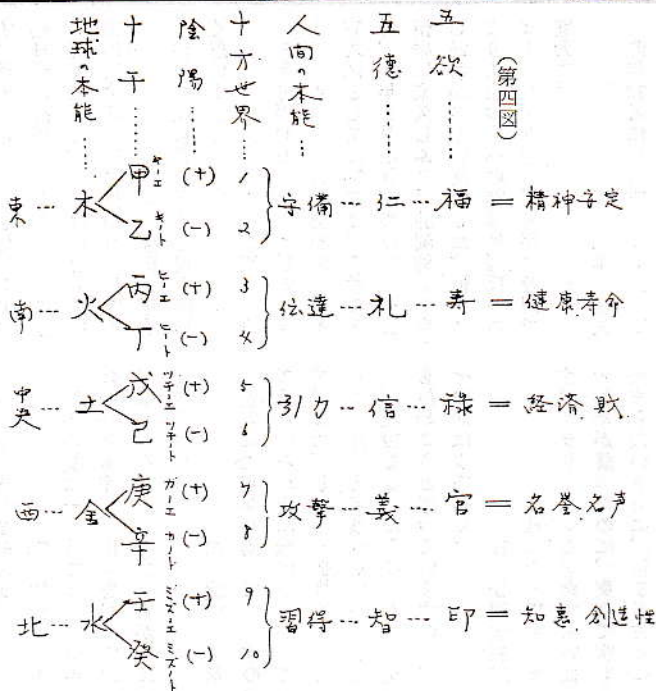
更に五行に仁義礼智信の五つの徳を配しますと、木は仁徳、火は礼徳、土は信徳、金は義徳、水は智徳になり、北は智の徳で知識を習得し、智恵や創造力を発揮する場所になります。

◎時代の動き

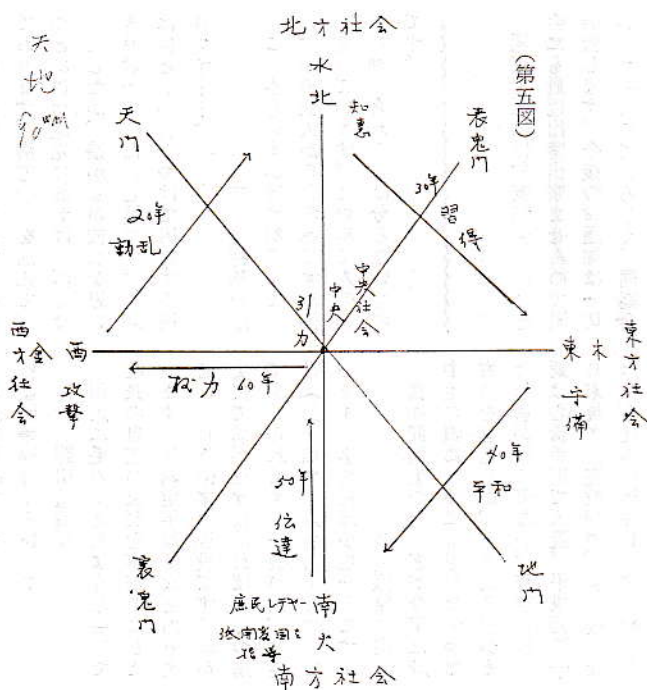
昭和二十年、終戦によって新しい日本が生まれました。一国の出発は憲法が發布された年が、国の始まりになります。(第五図参照)

集団を占う場合は西が出発点になりますので、昭和二十年代は西方社会で動乱の時代でした。動乱といっても、必ずしも戦争ではな

(第四図)



(第五図)



てゆくとされています。
元号が変わったら、昭和にラップ
させて考えて下さい。

◎表札は石に彫るな
最後につけ加えます。

最近立派な住宅が新築されます
が、表札に大理石のような石を用
い、名前を横に彫ったものが多く
なりました。

名前を石に彫るのはお墓だけで
す。姓名や会社名は絶対に彫って
はいけません。

こういう表札の家は、この家を
建てた時が家運が絶頂で、それ以
後は次第に衰退に向い、病人、死
者、親不幸などが出ると言われま
す。

表札は楯に墨で縦に書き玄関に
向って左側に掲げて下さい。

【参考】

算命学というのは、周の時代の
頃からスタートし歴代の王朝に伝
わったもので、軍略に応用した学
問だと言われています。
創始者は鬼谷子(きこくし)と
言われています。

◇ 本稿は昭和63年10月14日、新宿
NSビルのレストランで開かれた
において杉山栄一氏が講演された
ものです。
(編集部)

く、価値観が変る時代で、今まで
のものが壊れ、新しいものになっ
た時代でした。
昭和三十年代は北方社会の時代
になり、習得の時代で、日本は米
国に学び知識を習得し、新しい物
が生まれ、教育が盛頭しました。
習得時代は東北の表鬼門(丑寅)
を通過します。表鬼門を通過する
時は無形変化の時期といい、物の
考え方が変わり、新しい思想や学
門、宗教などが生まれます。安保闘
争が盛んに行われました。

昭和四十年代は、東方社会の時
代、平和時代になって安定し、昭
和三十九年にオリンピック、昭和
四十五年には万国博が大阪で開か
れました。
昭和五十年代は、南方社会の時
代、生活にゆとりが出来て、遊び、
レジャー、サービス業は盛んにな
り、庶民の時代になりました。南
方は伝達の本能ですから、伝達時
代で低開発国を指導するようにな
りました。
昭和六十年代は、中央社会の時

代。中央の引力本能から中央集権
となり、国家権力が強くなって、
税金が上がり、公共料金が値上り
し庶民は圧迫されます。
昭和六十五年以降、七十年代に
かけ、動乱時代へと近づき、だん
だん不景気に向い、価値感が大き
く変わる時代になることでし
や。
昭和五十五年頃から六十五年
頃までは、西南の裏鬼門(未申)
を通過します。この時期には人為
的な事故が起きやすいと言われて
います。日本航空の飛行機の墜落

や潜水艦と釣り舟の事故などはこ
の例です。
◎女性の活躍時代
昭和三十年代、四十年代は陽の
時代であったが、五十五年から六
十年代、七十年代は陰の時代にな
り、女性が大いに活躍する時代に
なります。
昭和七十年代は動乱時代、昭和
八十年代は習得時代、昭和九十年
代は平和時代というように、形は
違いますが本質的にはこういう要素を
内部に秘めながら、時代は変化し

「こえ」

(前号の続き)

気軽に筆を執って
お送りください

60 君島 康弘

三十有余年の教員生活も定年で退き、目下第二の人生に向けて充電中……といえは格好が良すぎるような気がしますが……

60 齊木 学

新神戸電機機の代取社長になって毎日多忙な生活で失礼しています。新宿三井ビルに勤務中です。

60 柴田 正臣

過日台湾高雄市にて井田淳氏に会い元気でした。今年は同窓会に極力出席する予定。皆様お元気で！

60 伊東 守

会報で里見君の雑感を讀み懐しく思いました。

60 伊東 守

現職に二年半在動していますのでそろそろ地方に飛ばされそうです。また、しばらく皆様と逢えないかと思うと名残惜しい気がします。現役を退いたらゆっくり旧交を温めようと思っていますので、その節はよろしく。

60 伊東 守

いつも御世話様になっております。サラリーマンの宿命で永い仙台勤めが終ったのに、東京で席も暖まらないうちに、再び名古屋に

60 伊東 守

転動となってしまいました。関東同窓会の総会が楽しみでしたが当分出席出来ません。皆様よろしく。(052-211-3341)

60 伊東 守

一度も出席しないまま何か言うのは気がひけますが、何とか若い人達の（私達も含めて）出席をうながす事は考えられないでしょうか。どこの同窓会でも同じ悩みがあるようですが。

60 伊東 守

日頃より何かにつけてご案内を頂きたいながら出席できず恐縮しております。満五〇才を迎えて、つとに岳南健児の面かげが薄くなりましたが、懐かしの校歌を思いきり歌ってみたい心境です。次回は何とか都合をつけて出席する積りです……。

60 伊東 守

この春思いもかけず転職しました。重厚長大から化学へですが張り切っています。この年で人の運命の廻り合わせとは分らないものです。

60 伊東 守

関東地区には知友が少くなり総会にも最近出席出来ませんので脱会致します。今後のお通知は一切いりませんのでよろしく。同期会

60 伊東 守

左記に勤めています。
杉並区善福寺4-18-7
野田造園機

60 伊東 守

個人に毛の生えたような会社で社長の自宅の玄関を事務所にしています。勿論定年制度などありません。目下68才の現役です。体が丈夫で頭がぼけなければいくつ迄でもいられます。一般事務、電話番（公・私）、雑用何でもやっています。事務員は小生一人です。

60 伊東 守

我々同期生の殆んどが今年は静中生の頃には夢にも思わなかった古希を迎えるが、どう云う訳かまだ家感が出て来ない。昨年の後半期は心臓手術で入院。平成元年一月末現在自宅療養中。少し暖かくなったら仕事に復帰します。やはり

60 伊東 守

総会の出席の悪いのは食べるだけ得ることがないからです。医師に健康についてとか、国会議員に国政についてとかを話してもらような工夫が何か必要ではないでしょうか。勿論会員の中から選び金をかけないようにすることです。

60 伊東 守

昭和十八年卒の五年B組。受持ちは山下初雄先生。先生のアダ名にちなんで名づけた同級会「流線会」（四十八年発足）が去る十月三十日、十九名が参加して先生の故郷磐田市で開かれ、病床の先生をお見舞いし、心温まるひとときをすごしました。

60 伊東 守

ごぶさたばかりしております。徳川幕臣子孫の会の役員を命ぜられお手伝いしています。慶喜公御孫徳川慶光様には毎月の茶話会で、また宗家十八代徳川恒孝様とは、年二回お目にかかっておりま

60 伊東 守

年令か？

60 伊東 守

本年度会費表記のとおり納入いたします。健康上の理由により、宴会の類にはすっかり不義理をしておりますがあしからずご勘弁下さい。

60 伊東 守

青木 良文

60 伊東 守

猪瀬 忠賀

60 伊東 守

鈴木 勝義

60 伊東 守

石野 浩一

60 伊東 守

上田 次郎

60 伊東 守

村瀬 重利

60 伊東 守

直原 澄術

60 伊東 守

一宮 弘道

60 伊東 守

松岡誠三郎

60 伊東 守

山本 俊夫

60 伊東 守

山本 俊夫

す。

59 近藤 陽三

相変わらず仕事と共にホッケーの指導にうつつをぬかし、母校東農大チームを再び全日本で優勝させるべく63才の青春の情熱を燃え立たせて居ります。

60 里見元一郎

最近復刻された中学教科書「国語」(岩波書店)を巻一から読みかえし、本当に良い教科書を使つたものだと感じつつ、懐旧の心情にひたっています。

67 河口 正義

役員の方々の不断の尽力に対し御礼申し上げます。スニヒロでの会合時折しか顔を出せませんが諸兄によろしく。

勤め先 千代田区大手町2-1-3
1 2 東京郵政局資材部需品課(243)
4 1 3 4 サンケイ会館前です。
お立寄りください。

67 影山 友安

今年度の同窓会の折には出席させていただきたいと思ひます。

70 滝口 登

故郷川根長島も、ダム計画により観光地として大変貌しつつあります。今年は鮎釣りで楽しんで来ました。

70 河井 良夫

この十六年間、饒松坂屋本社

(銀座にあります)勤務です。

ぜひお声をかけてください。

なお、事情がありまして、現在埼玉県川口と世田谷を半々に住みわけております。

71 片山 嘉博

会報を毎回送って頂き有難うございます。静岡の地を離れている為同期の方々ともなかなか会う機会がありませんので会報掲載の諸氏の氏名からお顔を想い出しなつかしく感慨にふけております。今後共、よろしくお願い致します。

71 野沢 弥寿

卒業以来、33年間、東京で商業写真を営んでいます。

80 鈴木 宏義

ヤマモトヨウイチケン、ヤクインノギョウムゴクローウサマデス。(と、つい誤目があったので電報の様な気がして片仮名書きをしてしまいました。同期役員の山本君へ感謝の意を表したものです。)

出張が多い業務で、仲々会合への出席も出来ません。悪しからず。

六三年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

昭和63年11月1日

平成元年3月31日

期別

四二 井出多米夫、岩崎康、菊地

謙雄、芦川民雄

四三 吉江誠一、三宅静雄

四四 長田寿雄

四五 黒田朋彦、蝦原一郎

四六 大藤道直、篠原清、山本幹夫、一宮弘道

四七 上田次郎

四八 近藤希賢(3)、伏見賢治郎、太田正元、佐々木英夫(3)、徳山雅俊

四九 上杉一郎、植木定美

五〇 仁科義郎、永田滋(3)、田中誠、村瀬重利

五一 永井五一郎、鈴木孝雄、磯塚駿吉、下山富太郎、蘆田正之、難波悦朗

五二 直原澄衛、相島秀夫、石野浩一、岩本良雄、一誠、勝又良男

五三 桜井昌也、園田芳男、香林竹男、宗像醇、谷静夫、木宮高彦、森下洋、虎岩秀郎

五四 宮沢四郎

五五 渡辺治郎、佐野圭司

五六 塚越修

五七 青木良文

五八 池谷秀雄、望月修、鳥居義彦、相馬敏、岡田久男

五九 鈴木勝義、伏見祐一、佐野正夫、猪瀬忠實

六〇 狩野和男、寺尾宏一郎、酒井哲夫、長谷川邦三、青木

豊、近藤陽三、大村和夫、増田真一、小沢武彦、佐野英一

六一 鈴木明、有田克己、里見元一郎、服部昌夫、野沢栄司

六二 萩原在太郎

六三 坪田昭三、宇都宮道和、長瀬脩、八木貞二、相馬孝三

六四 六五 増田誠男、馬場泰男

六六 豊納健蔵、新井彰、小林剛田中歌

六七 尾入泰彦、藤原朝則、小嶋清司、大村敏夫

六八 川上剛二、増田正高、向井久和、小杉謙一、大森恵吉

六九 稲川雅久、角田栄一、手塚重明、山川静夫(4)、河口正義、影山友安、鈴木敏行(8)、戸塚惣雄、中村次雄、杉山喜三、牧田仁男

七〇 河口浩、市原卓、伊月喬、植田男夫、萩原多賀男、小島哲彦、横山富士夫、望月芳朗、鈴木国功

七一 小林泰三

七二 小林孝光、宮本達可、藤波はるみ(10)、河井良夫、大草敏郎、小山清継、田中元、村上雅一、鈴木清、吉田修、滝口登、大長智、松

七三 永茂、清智、柳沢伯夫(3)、市川三世史、大村一彦、久米旺生(3)

七四 酒井力、加藤祐史、片山嘉博、関本光宏、相川東一(3)、松隈道雄、小林良行、的場徹、松井正年、川上貫三、今村清彦、望月祐言、高杉泉、野沢弥寿、池本徹

七五 近藤守、杉山光、望月公美

七六 中川明久、古井大朗、松下勝朗、小柳忠義、大石堯史、山本昌秀、深沢靖男、柴山欽伍、松永烈、栗田弘之助、山下勇三、西田和子

七七 山田修、羽山武、山梨由記

七八 小野田幸雄、宗像純司、山中博司、杉山親司、赤木政夫、関悦男、松永文夫、牧野昭雄、富田彬道、杉山正三、和田武郎、斎藤武、斎藤幸男

七九 稲葉一宇、角谷治子、中西恭二、鈴木陽、阿角友晴、佐藤鐘司

八〇 勝間田武司、藤倉美耶子、大島崇志、友田徹、遠藤安彦

八〇 鈴木高夫

八〇 中川武久、深沢直行、松浦正朗、近藤和代、大石孝裕

八〇 秋山幹男、日向秀子、山本

洋一、長倉利夫、鈴木宏義
九四 伴野明生、中村務、堀井猛
成、吉永陽子、福地康紀、
佐々木美登里

●お願い

一、年会費二千円の拠出を、同封の振替用紙にて、ぜひ早くお願いいたします。(既納の方にも用紙は同封しておりますことをご諒承ください)

一、42期から105期の各期のうち、幹事の確定していない期が約三分の一を数えます。至急選定のうえ、事務局までお知らせください。

●投稿を歓迎します!

会報は年二回、六月と十二月の発行をめざして、係一同がんばっています。会員の投稿を中心に編集しますので、ぜひどしどし原稿をお寄せください。
・同期会・随想・紀行文・回想記
・和歌俳句・新刊の紹介・会報についての意見など

名簿補遺訂正表 (変更事項 新入会員) 63.11.1~平成1.3.31 ●自営 ▲勤務先 ■学生

- 52 一 誠 ▲野田造園綽
53 沖 多三郎 【0492-92-2737】
〃 小野 一夫 【03-268-8503】 ▲東伸フェンス工業
綽【03-431-9311】
〃 大橋 百蔵 270 松戸市横須賀253-2
新松戸ファミリーハイツ4-309
〃 木宮 高彦 【03-470-3561】
〃 香林 竹男 勤務先削除
〃 桜井 昌也 ▲【03-253-3977】
〃 島田 良彦 勤務先削除
〃 野崎 昌輔 【03-334-0232】
〃 益田 貞三 勤務先削除
〃 望月 昂 【0474-54-3247】
▲谷津保健病院【0474-51-6000】
〃 森下 洋 【03-333-3733】
〃 山菅 章雄 【03-401-1365】
60 渡辺 博 226 横浜市緑区東本郷2-23-20
67 加藤 要作 ▲双葉電子工業綽【0475-2-4111】
〃 河口 正義 153 日黒区駒場1-29-2-103
【03-467-6233】 ▲東京郵政局資材部
【03-243-4134】
〃 小杉 弘 ▲朝日新聞社労政開発部
【03-545-0131】
〃 中村 次雄 274 船橋市松が丘4-12-14
▲千葉工業大学工業デザイン学科
【0474-75-2111】

- 67 田島 一男 ▲川崎市中原区役所【044-744-3111】
〃 大石 脩而 ▲日経スタッフ綽【03-258-7800】
〃 杉山 喜三 ▲取締役経理部長
〃 原崎 恵三 転出
68 植田 勇夫 273 千葉県船橋市上山町3-514-16
【0474-30-1999】
71 加藤 祐史 152 目黒区緑が丘2-11-4
グリーンヒル102
74 諏訪部美恵子 173 板橋区大山金井町9-9-402
76 鈴木 高夫 ▲綽ワーデン【03-903-7331】
80 大石 孝裕 281 千葉市柏台1-3-208
94 中村 務 213 川崎市高津区新作4-6-26 アーパ
ンヒルズ203【044-866-7195】
101 小川 敦子 131 墨田区東墨田2-27-8 ライオンズ
マンション東墨田301【03-617-7213】
▲CBS・ソニー

新規加入

- 67 長尾 章 157 世田谷区給田4-10-26 サンフォー
トA S O 303【03-5384-3276】 ▲東京
リース綽池袋営業部【03-988-1771】
〃 牧田 仁男 181 三鷹市下連雀6-8-16
【0422-42-2525】 ▲日本銀行国庫局
【03-279-1111】
〃 塩沢 満 420 静岡市川合29-59
【0542-62-7178】 ▲静岡帝国警備保障
綽【0542-81-0756】

不動産のご用はぜひ

三井不動産販売ネットワーク

城南リハウス株式会社

目黒店・恵比寿店・五反田店・自由ヶ丘店・蒲田店

日東不動産株式会社

取締役社長 田島 弘一郎

取締役副社長 調子 達郎 (70期)

東京都目黒区下目黒1-3-27

TEL 03(491) 0 1 7 1 (代)

同窓会コンペなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ

伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋 正 秋

取締役支配人 安田 正 弥 (66期)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1

TEL 0558-76-2 4 0 1 (代表)

鈴木株式会社

取締役会長 鈴木 与平 (44期)

清水市入船町11-1

Tel 0543 (53) 3111 (大代表)

東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F

Tel 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役会長 宮澤 次郎 (42期)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原 由三 (67期)

東京都中央区八丁堀2-1-7 神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波 信平 (42期)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井 平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田645

TEL 0542(62) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03(272) 4651 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

株式会社 勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤 徹 (59期)

本社工場 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246

Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547

大和工場 大和市深見3706-1 〒242

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

建築コンサルタント・設計施工業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野 孝 (53期)

取締役社長 奥野 進 (56期)

取締役副社長 奥野 広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

Tel 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

Tel 0542-46-9378

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈 正三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)